

果樹の枝幹害虫対策

佐賀県農業試験研究センター 環境農業部部长 口木文孝

カンキツのゴマダラカミキリ、ナシのフタモンマダラメイガ、ブドウのクビアカスカシバなどの害虫に枝や幹が食害された果樹は、樹勢が低下し、被害が激しい場合は枝及び樹体が枯死してしまいます。

ここでは、これらの枝幹害虫の防除対策について説明します。

1. カンキツのゴマダラカミキリ

ゴマダラカミキリは、卵から成虫まで1年または2年かかって生育します。成虫は5月下旬頃から発生し、6月中旬頃から樹皮に傷をつけて産卵し、孵化した幼虫が樹体内に食入します。幼虫は、カンキツ以外にも、ヤナギ、クワ、イチジク、クリなどにも寄生します。

薬剤による防除は、成虫発生期の6月上旬～中旬頃と、若齢幼虫が枝幹部に食入する6月下旬～7月下旬頃に行います。薬剤は、モスピラン SL 液剤、ダントツ水溶剤、オリオン水和剤 40、スプラサイド乳剤 40、エルサン乳剤などを散布します。なお、県内の一部地域でスプラサイド乳剤 40 の効果が低いゴマダラカミキリが確認されていますので、スプラサイド水和剤の防除効果低いと考えられる場合は他の薬剤を散布してください。被害は主幹部や太い枝で多く、雌成虫は主幹部の地際部に集中して産卵する傾向がありますので、薬剤はこれらの部分に確実にかかるようにしてください。

また、幼虫による被害が確認された場合は、直ちに樹皮下の幼虫を捕殺します。しかし、幼虫が大きくなり、幹内に食入して捕殺が難しい場合は、園芸用キンチョールやロビンフッドなどの薬剤を、幼虫が生息している穴の中に糞（木くず）を取り除いてから注入します。これらの薬剤注入後も糞が排出される場合は幼虫がまだ生きていますので、再度ていねいに注入してください。



写真1 ゴマダラカミキリ幼虫によるカンキツの被害

2. ブドウのクビアカスカシバ

クビアカスカシバは、寄生したブドウの近くの土中に土繭を作って幼虫で越冬します。そして、春に蛹になり、成虫は6月～8月頃に発生して粗皮上に産卵し、6月下旬～8月下旬以降に孵化した幼虫がブドウの樹皮下を食害します。幼虫はブドウのほか、山野に自生しているノブドウなどにも寄生しています。そのため、平坦部よりも山間、山麓部のブドウ園で被害が大きくなります。品質向上のための環状はく皮を行った部分を好んで、数頭以上が集中的に加害します。一度加害された部分は、翌年以降も続けて加害される傾向が認められま

すので注意が必要です。

薬剤は、成虫の発生時期である6月頃にフェニックスフロアブルなどを散布します。成虫の発生期間が6月～8月頃と長いので、被害が多い園では再散布が必要となります。被害が多い園では、発生予察用のフェロモントラップを設置して成虫の発生状況を把握しながら薬剤を散布することも考えてください。また、薬剤散布後に被害が確認された場合は、食入している幼虫を捕殺してください。捕殺する場合は、複数個体が寄生しているかもしれませんので、虫糞が出ているところを中心に寄生状況を確認してから行ってください。



写真2 クビアカスカシバ幼虫によるブドウの被害

3. ナシのフタモンマダラメイガ

フタモンマダラメイガは幼虫で越冬し、成虫は4月中旬頃から発生して、年3～4世代を繰り返します。成虫は粗皮上に産卵し、孵化した幼虫は粗皮下に食入し、形成層部分を食害します。なお、ナシ以外にもカキやイチョウなども食害します。幼虫は終齢幼虫でも体長13ミリ程度と小型ですが、1か所に多数の幼虫が寄生すると大きな被害を受けてしまいます。被害は、粗皮が厚い主幹部や太い幹に多く、また、老木や樹勢が低下した木に多い傾向が認められます。

防除対策として、フェニックスフロアブルを幼虫が最も多い9月頃を中心に散布します。ただし、樹皮下に寄生しているため薬剤だけでは十分な効果が得られないことがありますので、幼虫が寄生して虫糞が出ている粗皮の部分を、幼虫ごと削り取って捕殺することも重要です。ただし、削りすぎるとその部分に再度寄生して被害を受けることになるため、削りすぎないようにしてください。



写真3 フタモンマダラメイガ幼虫によるナシの被害

4. モモ、ウメのコスカシバ

コスカシバは、幼虫で越冬します。本種は年1回しか発生しませんが、成虫は4月下旬～10月頃にわたって長期間発生するため、幼虫の発生期間も長くなります。雌成虫は、樹皮の粗い部分を好んで産卵するので、樹齢が進んだ木に被害が多い傾向が認められます。一度被害を受けると、被害部は樹皮が粗くなってしまうため、その部分に被害が集中することになります。幼虫は、モモ、ウメ、スモモ、サクラなどに寄生します。幼虫による被害は地面近くの部分に多く、老木では幹や枝が太いと高い部分にも寄生します。

モモでは、休眠期～発芽期前までにサッチューコートSやトラサイドA乳剤を散布します。さらに、若齢幼虫が多い8月上旬～9月上旬頃に、被害部を中心にガットサイドSを葉にかからないよう注意して散布します。また、被害が多い圃場では4月上旬に交信かく乱剤であるスカシバコンLを設置したり、4月上旬にフェニックスフロアブルを散布してください。ウメでは、落葉後～発芽前にガットキラー乳剤を散布するか、1月～2月（開花前まで）にフェニックスフロアブルを散布してください。薬剤は、幼虫による被害が多い地際近くにもきちんとかかるようにていねいに散布します。スカシバコンLは、直射日光の当たる部分に設置すると効果の持続期間が短くなるため、必ず直射日光の当たらない下枝等に設置します。



写真4 コスカシバ幼虫によるモモの被害

5. キウイフルーツのキクビスカシバ

キクビスカシバは年1回の発生で、成虫は8月下旬～10月頃に発生し、キウイフルーツの当年枝などに産卵します。卵越冬で、3月下旬頃から4月に幼虫が孵化して、新芽・新梢に食入します。4月中～下旬頃から新梢を枯死させ、新梢が枯死したら枝の中を通過して前年枝等に移動して食害し続けます。なお、前年枝等では、食害されても枯死することはありません。幼虫は、キウイフルーツ以外にサルナシやミヤマタタビなどを食べるとされています。

薬剤は、3月中下旬と4月上旬の2回、フェニックスフロアブルなどを散布します。この時期は葉がほとんど展開していないので薬液がかかった部分からの跳ね返りが少ないため、散布した薬剤は噴口に面した部分にはかかりませんが、噴口の反対の面にはほとんどかかりません。そのため、薬剤は枝の両面から散布してください。

また、新梢で被害が発生したら、新梢中の幼虫が生育して前年枝に移動する前に、被害部分を幼虫ごと除去

して処分してください。



写真5 キクビスカシバ幼虫によるキウイフルーツの被害